# プラハ城 LED 照明化プロジェクト

プラハ歴史地区（チェコ共和国）

## 世界遺産に煌めく「ノスタルジック・クリア」

年間数百万人の観光客が訪れるプラハ城は、ユネスコの世界遺産に登録されている世界最大の古城。かつては蝋燭が灯された場所に、白熱電球が灯され続けてきた。その後、省エネ性能やランプ寿命に優れたLED光源の採用が検討されたが、従来光源が持つ厳かな雰囲気を継承できるかが課題となっていた。

パナソニックは、プラハ城の約1万個におよぶ電球をLED電球に交換するプロジェクトに協力。ここでは、新たに開発された、白熱電球と見紛うばかりの「LED電球クリアタイプ」を中心に、光源が一新された。これは透明なガラスの中央に白熱電球のフィラメントを模したLED基板を配置したもの。ヨーロッパでは電球の8割がクリアタイプで、その光はシャンデリアに独自の煌めきを与え、厳かな雰囲気を作りだしている。それを忠実に再現したこのLED電球は、日本の白熱電球より色温度が低い2700Kに設定し、ヨーロッパの光の質にもこだわった。ステンドグラスから漏れる外光と調和するLEDクリア電球の光は、ヨーロッパでは「ノスタルジック・クリア」と名付けられている。

ファサードには20mを超える高さに200個の電球が取り付けられており、ランプ交換は危険を伴う作業だったが、LED電球によってランプ交換による高所作業も減った。今回のLED電球なら、夜の数時間点灯で10年間以上ランプを交換する必要はない。今までの電球と同じ雰囲気で省エネになり、ランプ交換の手間も省ける。この結果、消費電力量に加えて運営コストが削減できたという。

クラシックな電球そのままの「LED電球クリアタイプ」が、ヨーロッパの夜を彩ると期待されている。

1. LED電球クリアタイプ40形とキャンドルタイプ15形に交換された聖ヴィート大聖堂内礼拝堂
2. 白熱電球のフィラメントを模した「LED電球クリアタイプ」
3. LED電球に彩られたロイヤルパレス
4. ファサードに設置された200個のLED電球クリアタイプ
5. ランプ交換時にはプラハ城消防隊のはしご車が出動